

みんなのほくぶつかん みんなぱく

MINPAKU

美術鑑賞は「無視覚流」で。

広瀬浩二郎准教授プロデュースの「さわる展示」が兵庫県立美術館で開催

1989年より兵庫県立美術館でおこなわれている「美術の中のかたち——手で見る造形」展を、今年は広瀬准教授がプロデュースをしました。視覚に障害をもつ人に美術鑑賞を楽しんでもらうとともに、視覚に偏りがちな美術鑑賞のあり方をとらえ直すことを目的とした、作品を手でさわる展示です。

展示では、まずアイマスクをして、広瀬准教授自身による音声ガイドを聞きながら、3つの彫刻作品をさわります。「無視覚流」と冠した鑑賞術を解説した音声ガイドは、ひとつの作品につき約7分。じっくり時間をかけ、作品の手ざわりや温度を感じていながら、部分を頭のなかでつなぎあわせ全体像をイメージしていきます。

作品が実際にどのような姿をしているのか気になるのですが、観覧後、作品を来場者に見せるかどうかは大きな議論となったそうです。「最後に見てしまうと、視覚的なイメージや情報が追加されてしまいますので、思い切ってさわった感覚や印象だけをもって帰っていただくことにしました」と広瀬准教授。

もうひとつの大きなポイントは、視覚障害者の美術鑑賞の疑似体験ではないということ。目が見える人も、アイマスクをすれば同じように楽しめるのです。誰もが楽しめる博物館「ユニバーサル・ミュージアム」の考え方を示す、新しい鑑賞スタイルなのです。

広瀬准教授は今後の展開について、今回の兵庫県立



みんなぱく本館「探究ひろば」にある「世界をさわる」コーナー。「じっくりさわる」「見てさわる」「見ないでさわる」という、3つの仕掛けにより、資料をさわることができます

美術館での展示や、みんなぱく本館の「探究ひろば」にある「世界をさわる」コーナーなどの「さわる展示」の蓄積をもとに、みんなぱくで企画展や特別展が開催できればとのことでした。

「美術の中のかたち——手で見る造形 つなぐ×つつむ×つかむ 無視覚流鑑賞の極意」 兵庫県立美術館にて 2016年11月6日（日）まで

※会期中、兵庫県立美術館では広瀬准教授による関連のワークショップや講演会がおこなわれます。また、8月7日（日）の「ウィークエンド・サロン」（みんなぱく本館ナビひろばで開催）や、10月の「カレッジシアター」（あべのハルカス近鉄本店「スペース9」で開催）でも、関連のお話をするそうです。



みんなぱくをもっと楽しみたい人のために—————会員制度のご案内

詳細については、「国立民族学博物館友の会（一般財団法人千里文化財団）」までお問い合わせください。

電話06-6877-8893（平日9:00～17:00）

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館 キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。